

歯科衛生士が足りない！



専任教員の川口さん(中真)から歯石除去のこつを学ぶ学生たち

—長崎市茂里町、長崎歯科衛生士専門学校

歯科医院でおなじみの歯科衛生士。高齢社会が進む中、介護施設や訪問診療など活躍の場は広がっているが、逆に志望者は減少し、人手不足が続いている。県内の養成所は学生の確保に懸命、歯科医師会などは休職中の有資格者の復帰に力を入れ始めた。

(生活文化部・小出久)

求人倍率は全国11.7倍

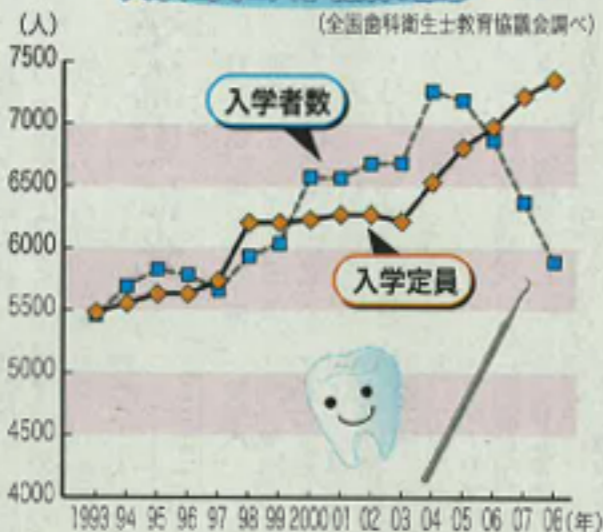
9日、長崎市茂里町の長崎歯科衛生士専門学校を訪ねると、1年生が歯の周ポケットの深さを測べる「プロービング」、歯石を取り除く「スケーリング」の実習に取り組んでいた。学生は歯石除去のこつを伝授する教員の手元を凝視、技術向上に余念がなかった。

「ずっと歯科衛生士にアコがれていた」と言う東彼波佐見町宿郷の堀池真奈美さん(19)のように高校卒業後ストレートで進んだ学生もいれば、「手に職をつけたい」と医療事務職を辞めて入学した西彼時津町西時津郷の山内めぐみさん(26)のような転職組も。同学校専任

養成課程3年、少子化など背景

歯科衛生士養成所の入学定員と入学者数の推移

(全国歯科衛生士教育協議会調べ)



歯科医師会など休職中の有資格者復帰を支援

て、同協議会は「業務の多様化などのため、05年から歯科衛生士の養成課程が2年以上から3年以上に延びたため」と分析。県歯科医師会の浅田隆理事(専門学校担当)は「大きくは少子化が原因で、大学やコンピュータ関連の専門学校などとの間で競争が激化している」とみる。

九州文化学園歯科衛生士学院(佐世保市、定員40人)、長崎医療技術専門学校歯科衛生士学科(長崎市、同40人)も定員を下回る状況。各校は「進路指導現場で歯科衛生士の認知度が低いことも一因」として高校を訪問するなどして歯科衛生士の魅力をPRしている。

一方、結婚、出産・育児などで休業した歯科衛生士を復帰させる動きも活発化している。

厚生労働省などによると、歯科衛生士の資格取得者は約22万2400人(2月末現在)に上るが、就業しているのは約4割の9万6442人(08年末現在)にすぎない。県歯科医師会と県歯科衛生

士会などは昨年、「歯科衛生士再就職支援対策協議会」を設置し、最新知識や技術を学べるリカバリ研修会を開き復帰を支援している。

浅田理事は「近年は歯科医院の過剰が指摘されるが、その点を差し引いても歯科衛生士が減り続けられれば歯科医療全体に支障を来す」と懸念。「3年課程になったことで収入は大卒事務職より高く設定(県内初任給)されており、条件は悪くないはず。何より国民の健康に寄与するやりのある仕事であり、もっと興味を持ってもらいたい」と話している。

県内の養成所3カ所は現在も来春入学者を募集している。

Q-ズーム
歯科衛生士 歯科医師の診療補助、歯石除去などの予防処置、患者への保健指導などを行う専門職。歯科衛生

士法に基づき、国家資格で、高校卒業後、専門学校など歯科衛生士養成所で学び、国家試験に合格すると取得できる。業務の高度化や多様化に伴い、2005年

の養成所指定規則の改正で、修業年限が2年以上から3年以上に變更され、10年4月までに全養成所が移行するようになった。